

2024 年 10 月 1 日

## ローム株式会社 2024 年度 ESG 説明会 Q&A

|      |                                                                                                                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| No.1 | Q. CO2 削減目標の達成に向けた投資計画や費用負担の考えについて聞かせてほしい。                                                                                                                                         |
|      | A. CO2 削減目標の達成には、高効率な大型設備の導入が必要と考えている。機器そのものの性能を 1 つの指標と考えており、今回 ICP を導入して、CO2 削減と投資効率の双方を考慮しながら進めていく。また、再生可能エネルギーの導入は、様々な手法があり、有効に活用して進めていく。                                      |
| No.2 | Q. 取締役会の議長を社外取締役へ変更して、取締役会の運営はどう変わったか。                                                                                                                                             |
|      | A. 元々、私（松本）が昨年までは議長であったが、今年から社外取締役が議長となり、執行サイドの意見を発言しやすくなり、自由闊達な議論の場として活性化できた。私自身が議長をしていたときは、議長としての意見か、執行側の意見なのかが難しいところがあったが、執行の責任者として発言できるようになったため、監督の実効性確保の面でも非常に良くなってきたと思う。     |
| No.3 | Q. ICP（Internal Carbon Pricing）の導入について聞かせてほしい。                                                                                                                                     |
|      | A. ICP は社内でもずっと検討してきて、2024 年度下期より投資判断の指標の 1 つとして導入していく予定である。まずは PFC 除害装置、大型機器であるクリーンルーム等に関わる付帯設備に限定して運用をスタートするが、将来的には生産設備にも導入していきたいと考えている。                                         |
| No.4 | Q. カーボンニュートラルに関して、2050 年目標からの前倒しを複数の企業が公表しているが、取組みに変化はあるか。                                                                                                                         |
|      | A. 社会的に前倒しの要請が高まっているのは理解、実感している。色々な場面で考えさせられることがある。現時点では具体的な時期は未定であるが、検討している段階にあり、新しい取り組み、計画を発表できるタイミングになれば、お知らせしたい。                                                               |
| No.5 | Q. サステナビリティ経営委員会では、どのような内容を議論しているのか。                                                                                                                                               |
|      | A. 具体的な議題としては、ESG に関する報告内容や、外部評価機関からの評価結果、サステナビリティ・リスクのほか、ガバナンス体制や、人的資本経営の考え方などを議論している。その内容は、取締役会に提案して、さらに議論している。                                                                  |
| No.6 | Q. EV 市場が減速している中、SiC 関連の人的投資は厳しい状況にあるのではないか。                                                                                                                                       |
|      | A. 足元では BEV の成長率が鈍化しているものの、中長期的には市場は引き続き成長すると見込んでいる。ただ、不透明感はあるので、我々の投資計画をどんどん遂行するのではなく、需要に基づいて投資と人の手配を進めていきたいと考えている。建物の準備はほぼできたので、今後は過剰投資にならないように状況を注視しながら遂行していく。                  |
| No.7 | Q. エンゲージメントサーベイの結果、単体とグループ会社で大きな差があるが、これは課題と捉えているのか。                                                                                                                               |
|      | A. 現在、単体とグループ会社で、隔年でエンゲージメント調査を実施しており、海外のグループ会社は非常に高い結果が出ていますと認識している。会社ごとに比べるとというよりも、グループ会社ごとの経年変化をモニタリングしていこうと考えている。ただ、確かに日本は海外と比べて数値が低いと考えており、先ほど説明をしたような対話を通じた改善などを含めて対応していきたい。 |
| No.8 | 企業価値の観点から財務・非財務の問題を考えた際の現在の大きな課題は、以下の 2 点と認識している。                                                                                                                                  |
|      | Q. ① 積極投資を行ってられる現在の戦略が本当に正しいのか。（SiC 向け・東芝向け等）<br>② 上記の①が正しいという上で、それを貫徹できるだけの人的資本育成が可能なのか。人材獲得競争状態にある現在の半導体業界でどのように確保されるのか。                                                         |
|      | A. ① SiC に関しては、特に BEV の成長という大きな風があり、そこに対してお客様からかなり旺盛な需要をいただくフェーズとなり、これにしっかり対応することが、我々の社会に対する貢献であると認識して実施してきた。ただ、足元では確かに EV の成長率の鈍化も見られ、投資金額が少し過剰ではないかという点は                         |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>我々としても理解している。建物の準備は整ってきたため、これからの本当の生産体制の増強のフェーズは、我々で今後コントロールして、需要の状況をしっかり見ながら、投資の抑制や調整をやっていききたい。それを実施することによって、我々の使命である顧客の課題解決に取り組みたい。</p> <p>東芝との議論では様々な検討をしているが、半導体業界は様々な連携が不可欠であると考えている。ポートフォリオの拡大や市場の変化、各社の得手不得手もあり、色々なところと連携をしていかないと、この業界でずっと生き残って社会に貢献するのは難しい。この件に対して具体的なことを皆様に伝えきれていないが、現時点では交渉中であるので、何かははっきりしたことがあれば開示をしたい。</p> <p>②特に SiC に関して申し上げますと、九州の宮崎県で新たに工場を取得した。</p> <p>宮崎県からかなりのバックアップをいただいております。宮崎大学を含めたコンソーシアムで産官学連携し関係性を強化している。また、開発人員に関しては様々なところで必要となるので、中途採用も含めて積極的に採用できるようにしていきたい。</p> |
| No.9  | <p>Q. 投資と回収に関する規律・ガバナンスに対して、SiC や東芝など大型投資を進める中で、事業環境や競争環境が変化し、投資回収に対する不透明感も出てきている。</p> <p>例えば投資を減らしても SiC は 25 年度に必ず黒字化するなど、一定の規律を議論されるような機会はあるのか。</p> <p>A. SiC に対しても東芝への出資に対しても、当然ながらしっかりと取締役会で議論をしている。同時に、取締役会では今の中期経営計画の進捗もモニタリングしており、取締役全員で、総合的な投資判断の議論を実施している。市況の変化に対してブレーキをかけることや、ポートフォリオの見直しも取締役会の議論に含まれている。</p> <p>具体的に今お話にあったような「SiC の投資を減らしても、2025 年度に必ず黒字化する」といった結論には至っていないが、過剰投資にはならないようにしながらしっかりと成長させて、黒字化を達成したいと考えている。</p>                                                                        |
| No.10 | <p>Q. 将来に向けて、さらに従業員エンゲージメントを高めるためにどういった施策を取るべきと考えているか。</p> <p>A. 創業以来の企業理念を従業員にしっかり理解してもらった上で、様々な取り組みを進めていくべきと考えている。当社では創立記念日の行事として、部門長自らが全ての部下と話し合う場を設けて企業理念をテーマにディスカッションを行い、将来どのようなところを目指すべきか、自分たちはどうあるべきかなどを議論する取り組みをしている。これが 1 つの手法であると感じている。経営理念を 1 人ひとりが理解すると同時に、多様な人たちのそれぞれの考えを、職場内で話しながら改善を進めていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                  |